

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472900693		
法人名	マイルド・ケア株式会社		
事業所名	グループホーム あつぎみなみ		
所在地	神奈川県厚木市岡田5-8-23 (電話) 046-220-1411		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価確定日	平成19年10月16日

## 【情報提供票より】(19年8月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 0.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建て	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

14729	63,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷 金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 600,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 8月13日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82.5 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 仁愛会 近藤病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ① 環境 ・相模川を望む河川敷と散歩道沿いに位置し、近くに小学校、老人憩いの家、神社などがあり、自然に恵まれた環境にある。
- ② 介護 ・24時間対応の医療機関、家族との連携体制がとれている。月1回の手紙でホームの状況、行事案内、出納報告などを家族に伝えている。
- ③ 教育 ・開所時、職員の総意でホームの理念を作り上げ、その達成のために日々努力している。内部研修、所属団体の研修情報をもとに職員の質向上に努めている。
- ④ その他 ・定期的に運営推進会議を開催して意見交換をし、また自治会の一員として地域行事へ参加するなど地域との連携に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が地域密着型の初回評価なので、前回評価はない。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の全体会議で自己評価について説明した。</li> <li>・職員全員で自己評価項目に関し意見を出し合い、ホーム長がまとめた。</li> <li>・評価項目を意識して日々のサービスに取り組んでいる。</li> </ul>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年10月、H19年5月に運営推進会議を開催した。地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、利用者代表、ホーム長他施設側が参加し、グループホームの方針・状況の説明・意見交換を通じて地域との連携・サービス向上に努めている。</li> <li>・施設長が厚木市窓口と常時接触して意見交換をしており、また厚木介護保険事業所連絡協議会で厚木市介護保険課担当者との話し合いを持っている。</li> </ul>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書面で苦情窓口を紹介している。現在まで苦情処理に該当する事案はない。</li> <li>・家族別に連絡板を設け、面会時に必要な情報を提供している。</li> <li>・家族の意見、要望を面会時に聴取し、連絡ノートに記録し、随時改善している。</li> <li>・家族への月1回の便りで、出納状況・グループホームの状況・次回行事を伝え、面会時に写真を含めて利用者の暮らしぶりを伝えている。</li> </ul>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入しており、自治会の行事(お祭り、老人会など)に参加する計画であり、地域との交流を深めようとしている。</li> <li>・近隣小学校の運動会を見学し、小学生のグループホーム見学を受け入れた。</li> </ul>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念は、利用者とその家族が職員や地域の方々と共に楽しく幸せに生きることを標榜し、加えて医療機関との連携を密にし利用者の健康を守ることを謳っている。 ・「あ・つ・ぎ・み・な・み」の頭文字から始まる理念の中に、「つないでいきます地域とのネットワーク」があり、地域との関係を重視している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員には事業所内研修を通じて、日常の介護で理念を具現化することを教育している。 ・理念をリビングに掲示することにより、職員の日々の業務に反映するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会長が回覧板を持って毎回来訪して下さり、情報交換をしている。 ・町内会に加入しており、神社のお祭りや小学校運動会の見学に参加した。小学生の見学も受け入れられている。今後は自治会の老人会の方たちとの交流も考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・月1回の全体会議で自己評価について説明した。 ・スタッフルームに自己評価票を置き、職員全員で意見を出し合い、ホーム長がまとめた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・H18年10月、H19年5月に運営推進会議を開催した。地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、利用者代表、ホーム長、ユニットリーダーが参加し、地元皆さんの意見をお聞きして運営に反映させている。 ・次回はH19年10月を予定し、今後半年に1回のペースで開催する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行政との連携では、施設長が厚木市を頻繁に訪問し、行政の介護支援情報を得ている。 ・更に2～3ヵ月に1回開催の厚木介護保険事業所連絡協議会で厚木市介護保険課の担当者と情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・ほぼ全員の家族が月1～2回来訪しており、その都度スナップ写真などを示し、暮らしぶりや健康状況などを知らせている。 ・毎月1回、手紙でホームの状況、次回の行事などを家族に伝えると共に、その手紙に小遣い出納帳や領収書のコピーを同封し金銭管理面も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情・相談受付システムはできているが、今まで該当するような案件はない。 ・家族訪問時に声掛けし、気軽に意見、希望を聞きだすようにしている。聞き出した情報は個人別ノートに記録し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・全職員でこのホームを作り上げてきたという意識が大きく、現在までに離職者は2名だけであり、異動の影響は殆どない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・神奈川県認知症高齢者グループホーム協会や地域の研修会、講演会があり、これらへの参加を通して職員のレベルアップを図っている。 ・内部研修で薬の服用方法や、副作用について研修を行った。訪問歯科医による毎週木曜日の口腔ケア研修を計画している。	○	利用者の日常的な口腔ケアは大切なことであり、計画中の口腔ケア研修の実現を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・神奈川県認知症高齢者グループホーム協会、厚木介護保険事業所連絡協議会を通して同業者との交流機会を持っている。講習会、講演会、勉強会に参加し、職員のレベルアップを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に、本人と家族の見学をすすめており、今後はレクリエーション（お花見、納涼祭など）への参加も考慮して徐々に馴染めるように工夫していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・煮物、野菜処理、包丁を扱う食材処理、盛り付けなど、食事の準備を手伝ってもらったり、金魚、亀の飼育を一緒に行っている。 ・これらを通じて利用者と職員が共に楽しみ、共に語り合うことができる良い関係が出来上がっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居前のアセスメント、ADL（日常生活動作）情報から生活歴を把握した上で、ホーム内の日常の会話、昔話やTVを見ながらの会話、家族からの情報などにより本人の希望・意向をくみ取り、個人別ノートに記録して支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者1人に担当者3人のチームを作り、毎月開催のカンファレンスで介護計画を作成している。 ・カンファレンスに参加できない職員は、その都度「気付きメモ」を提出し、意見反映に努めている。 ・家族訪問時の家族意見や本人の日常の意見も介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・全利用者9名の介護計画見直しは、毎月3人づつ、ケアマネージャーの参加を得て行い3ヶ月で一巡している。 ・その他、状況の変化に応じて随時見直しを行っているが、計画変更時は家族に説明の上要望を聞き、最終決定計画を家族に郵送している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・通院の付き添いは家族が行うことが原則だが、緊急時や家族の都合が悪い場合は職員が代わりに送迎するなど柔軟に対応している。 ・1階で行われているデイサービスの「菜園での収穫」や「ゲーム遊び」にも参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・総合医療機関である近藤病院とは24時間対応の契約書を確認した。 ・利用者のほとんどが契約しているかかりつけ医による内科往診を月2回、歯科往診を月4回（希望者）受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化、終末期介護については医療機関に依頼することとしており、家族からも事前了解を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人ひとりの状況に応じた言葉かけを心がけており、落ち着いて優しく話しかけるよう心掛けている。 ・記録は個人名でなく部屋番号で記載し、個人記録はスタッフルームに施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床や食事、散歩などの日課には基本的な決まりはあるが、その日の利用者の体調や希望を尊重して、柔軟に対応している。 ・希望を表現しにくい利用者には、職員の方から声かけして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の好みを把握して、献立を工夫している。嫌いなものは無理強いわせず、楽しく食事ができるように心掛けている。 ・下ごしらえや、煮つけなど利用者のできることを職員が理解して、一緒に調理し、配膳、下膳している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴漏れがないように、入浴チェック表を活用して職員が入浴状況を確認している。 ・通常の入浴時間帯は、午後1：30頃からであるが、希望があれば夕食後や就寝前の入浴にも応えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者や家族から、趣味等を聞き、できることでの役割分担をお願いしている。 ・花好きな方には水遣りを、亀好きな方には飼育を担当してもらうことで、日々の楽しみになっている。 ・入居前に趣味で撮った写真がいろいろな場所飾っており、話のきっかけになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・月1回希望者で花見、外食などで外出し、日常生活に変化をつけている。 ・自分の誕生日を一人で静かに祝いたいという方には、職員と二人で外食して喜ばれた。また、一人での買い物希望にも応え、ゆっくりショッピングを楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・近隣の交通状況から、安全のため1階の出入り口は施錠しているが、居住している2階3階は施錠はなく、階段、エレベーター共、自由に行き来できる。 ・各居室の開閉は利用者の自由に任せており、開け放している部屋が多く開放的であった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害時に備え、様々な状況に対応する手段を考えながら、避難訓練を実施している。 ・現状は、災害時には近隣に住む職員が駆けつけるよう手配してある。自治会長にも協力依頼しており、今後住民の協力もお願いする意向である。	○	・運営委員会で地域に協力を仰いでいるので、実現に向けて地域協定締結などの具体的な方策を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの食事や水分の摂取量は摂取表に詳細に記載されている。 ・今夏のような暑さには冷蔵庫に日々数種類の飲み物を用意し、臨機応変に水分確保に努めた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは、季節の鉢植えや金魚鉢が置かれており、対面式キッチンの設計で調理の匂いや音が聞こえ、家庭的雰囲気が感じられる。籐椅子などもそれぞれ個性的で、ゆったりと過ごしている。 ・明るく日光を取り入れた設計で、採光や遮光にはカーテンなどで配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室のレイアウトは利用者と家族が相談のうえで使い勝手を考えて決めている。 ・ベッドや家具も好みのものを持ち込んでおり、仏壇、縫いぐるみ、アートフラワーなどそれぞれが個性的に飾ってある。		